

排尿障害における半夏白朮天麻湯の有効性について

共立習志野台病院 産婦人科 木下 哲郎

キーワード

- 排尿障害
- 脾気虚
- 頭痛
- 半夏白朮天麻湯

主に、頭痛やめまいの治療に用いられる半夏白朮天麻湯の排尿障害に対する有効性を検討したところ、妊娠中、産後、非妊娠のいずれの症例においても高い有効率が得られ、特に、頭痛を伴う症例において有効率が高い傾向がみられた。排尿障害の主な原因は、腎陽虚と脾気虚といわれており、排尿障害を脾気虚によるものと捉えた場合には半夏白朮天麻湯も選択肢の一つとなり得ることが示唆された。

はじめに

産婦人科における排尿障害は、近くて遠いテーマのひとつである。かつては、更年期以後の問題であったことが、現在では成熟期、妊娠期、分娩期以後、更年期それぞれのステージにおいても注目されている。

半夏白朮天麻湯は頭痛、めまいに使われることの多い漢方であり、筆者も日本東洋医学会学術総会にて妊娠中のめまいと頭痛に対する本方および当帰芍薬散の有効性を報告している¹⁾。一方、半夏白朮天麻湯は神経因性膀胱に有効との報告もある²⁾。

今回、当科でも神経因性膀胱を含む排尿障害に半夏白朮天麻湯を処方する機会を得たので、その処方経験も含め、排尿障害における半夏白朮天麻湯の有効性について報告する。

対 象

問診にて脾気虚の状態と考えられた、排尿障害のあるもの30例。内訳を表1に示す。

表1 患者背景

	例数	年齢 (歳)	身長 (cm)	体重 (kg)	処方期間 (週)	妊娠週数 (週)	産後日数 (日)
妊娠中	5	30.8	161.6	55.3	1.4	8~37	—
産 後	5	33.2	159.4	60.3	2.6	—	3~76
非妊婦	20	49.2	158.4	51.3	6.1	—	—

※ 年齢、身長、体重、処方期間はいずれも平均値

方 法

半夏白朮天麻湯を1日量7.5g/分3または5.0g/分2で処方し、臨床症状の改善を調査した。また、半夏白朮天麻湯の処方目標である頭痛、めまい、冷えの有無についても調査した。

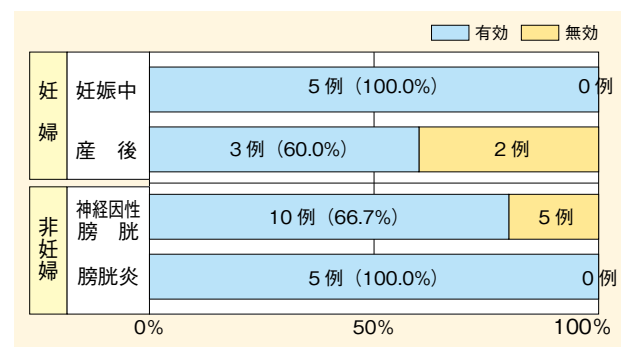
結 果

排尿障害に対する半夏白朮天麻湯の有効率は、妊娠中で100%、産後は60.0%であった(図1)。

ほとんどの症例で1~2週間で効果が認められた。

非妊婦の神経因性膀胱に対する有効率は66.7%、膀胱炎の抗生物質との併用療法では100%の有効率であった(表3)。

図1 排尿障害の有効率



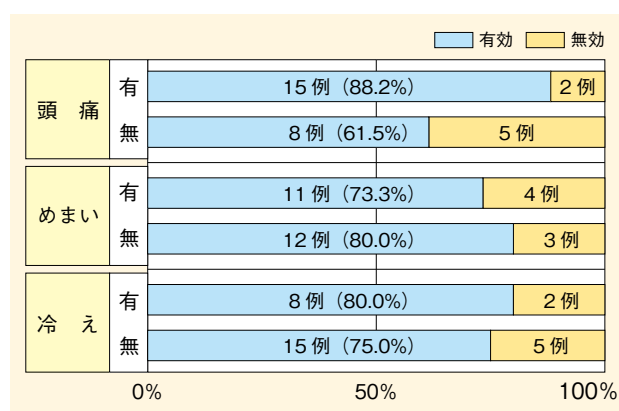
頭痛、めまい、冷えの有無について調査した結果を表2に示す。これらの症状を合併している場合の有効率はそれぞれ頭痛で88.2%、めまいで73.3%、冷えで80.0%であった(図2)。

また、本方による副作用は特に認められなかった。

表2 排尿障害が有効であった23例における頭痛、めまい、冷えの訴えのあった例数（複数回答）

		頭 痛	めまい	冷 え
妊娠中		3	3	1
産 後		1	1	0
非妊婦	神経因性膀胱	10	10	8
	膀 胱 炎	3	1	1
計		17	15	10

図2 合併症状別有効率



考 察

女性の排尿障害、とりわけ神経因性膀胱には、弛緩性膀胱によるものが多い。特に、妊娠中および分娩後の排尿障害の原因となりやすい。

中医学では排尿障害あるいは尿閉を癰閉と称するが、脾気虚、腎陽虚が主な原因であるといわれている³⁾。排尿障害の漢方治療では、通常その原因を腎陽虚と捉え、八味地黄丸などの補腎剤を用いることが多いが、脾気虚によるものと捉えた場合には半夏白朮天麻湯も補脾剤のひとつとして選択肢となり得る。

半夏白朮天麻湯は「脾胃論」が原典で、脾胃の虚したものの胃内停水が水毒となって上衝し、発作性の頭痛やめまいを起こす場合に処方される(図3)。一般的にめまいに使用されることが多いが、頭痛への応用も有効性が高い処方である。今回の検討では使用目標である痰濁上擾、すなわち、痰湿が頭表部に上昇して生じる頭痛やめまいの症状の有無についても調査を行ったが、頭痛の症状を有する症例に有効性が高いという傾向がみられた。

また、小川らは、頻尿を悪化させる要因としてうつの状態があることを指摘している³⁾。うつに

は気虚が深く関与することが多いが、本方の構成生薬には補気薬も含まれており、脾胃は気血生化の源といわれることから、半夏白朮天麻湯の補脾作用が間接的にうつの改善に役立っているものと考えられる。

今回の検討では、非妊婦の処方期間が長くなる傾向がみられたが、慢性の膀胱弛緩状態となっていることが窺える結果であった。

図3 半夏白朮天麻湯

- ・原 典：脾胃論
- ・使用目標：脾気虚(胃腸虚弱) 痰濁上擾(めまい、頭痛)
- ・腹 診：振水音
- ・舌 診：淡白、白舌苔
- ・処方構成：天麻2.0、半夏3.0、生姜0.65、陳皮3.0、人參1.5、黄耆1.5、白朮3.0、蒼朮3.0、茯苓3.0、沢瀉3.0、麦芽2.0、黄柏1.0

おわりに

泌尿器科領域の代表的な漢方療法は表3に示すとおりであり、排尿障害の漢方治療には、一般的に補腎剤が多く使われる。今回、脾気虚の排尿障害に半夏白朮天麻湯を処方し、特に頭痛を伴う症例で有効率が高い傾向がみられた。脾気虚の排尿障害には半夏白朮天麻湯をはじめとする補脾剤が有効である可能性が示唆された。

表3 泌尿器科領域の代表的漢方療法⁵⁾

補 腎 剤	六味丸・八味地黄丸	腎虚を認める
補 脾 剤	補中益気湯・十全大補湯	体力低下著明、気力低下
駆 瘀 血 剤	大黄牡丹皮湯・通導散	骨盤底筋の緊張症状合併時
柴 胡 剤	柴苓湯・小柴胡湯	胸脇苦満あり、慢性炎症時
清熱利水剤	竜胆瀉肝湯・猪苓湯	慢性尿路感染時

☆補腎剤・清熱利水剤処方の機会が多い

【参考文献】

- 1) 木下哲郎：妊娠中のめまいと頭痛に対する漢方治療について 日東医誌 61(Suppl): p312, 2010
- 2) 橋本すみれら：神経因性膀胱に対し半夏白朮天麻湯が著効した1症例 日東医誌 60(6): p607-610, 2009
- 3) 小川由英ら：排尿異常に対する漢方診療 外科治療 97(5): p482-488, 2007
- 4) 池内隆夫：疾患と漢方4 腎・尿路疾患の漢方療法 昭和医会誌 64(1): p31-34, 2004.